

## 幼児期の終わりまでに育ってほしい

# 10の姿

「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5領域の内容を踏まえて、資質・能力を育成することから、5歳児後半までに育って欲しい子どもの具体的な姿を明確にしています。

「姿」というのは、様々な活動の「中」に表れる、子どもの様子を具体的に示したものであって、10の項目それぞれを、別個に取り出して指導するためのものではありません。

子どもの自発的な活動としての遊びを中心とした、幼児教育を通じて「10の姿」が育っていき、更に、小学校入学以降も、育ち続ける事を目指しています。

つまり、実現していこうとするこの姿は、5歳児後半にいきなり出現するものではなく、また、幼児期の終わり迄に完成するというものでもありません。

3歳、4歳を含む、長い育ちの中で、その姿は現れ、小学校以降も育ち続けていくのです。

それぞれの、成長の時期に合った、毎日の指導の積み重ねが、その姿につながっていくことを忘れてはいけません。

保育者と小学校の教師が、「幼児期の終わり迄に育って欲しい姿」を共有することで、幼児教育と小学校教育との接続や、その後の指導が、スムーズに行われることも目指しています。

## 幼児教育

- ① 健康な心と体
- ② 自立心
- ③ 協同性
- ④ 道徳性  
規範意識の芽生え
- ⑤ 社会生活との関わり
- ⑥ 思考力の芽生え
- ⑦ 数量や図形  
標識や文字などへの  
関心・感覚
- ⑧ 自然との  
関わり・生命の尊重
- ⑨ 言葉による = 伝え合い
- ⑩ 豊かな感性と = 表現

## 小学校教育